

FORMATION OF MASK PATTERN

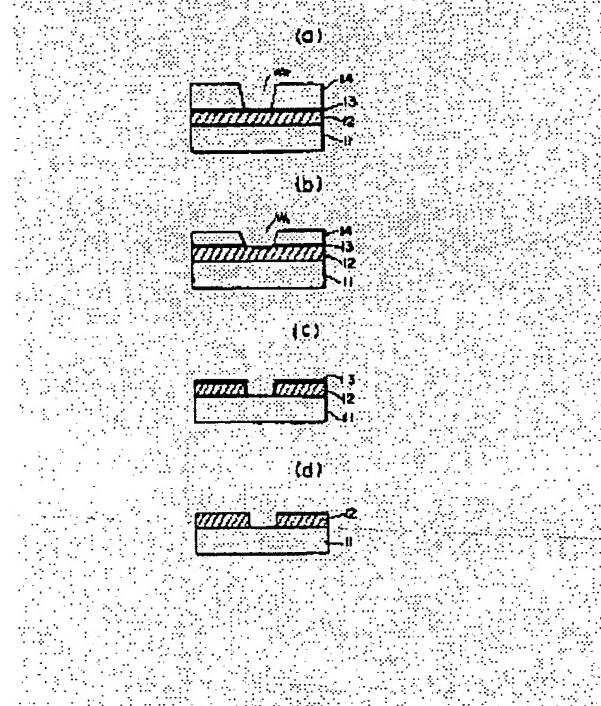
Patent number: JP61138256
Publication date: 1986-06-25
Inventor: KATO YOSHIHIDE; SHINOZAKI TOSHIAKI; KIRITA KEI
Applicant: TOKYO SHIBAURA ELECTRIC CO
Classification:
- **international:** G03F1/00; H01L21/30
- **european:** G03F1/08
Application number: JP19840261513 19841210
Priority number(s): JP19840261513 19841210

[Report a data error here](#)

Abstract of JP61138256

PURPOSE: To improve dimensional precision by forming a thin film layer having etching resistance on a mask base material having etching resistance, forming a resist pattern on the thin film, etching it, and repeating the second etching.

CONSTITUTION: A polymethyl methacrylate film 14 is formed on the thin film 13 made of tantalum, and exposed to electron beams in a desired pattern, and then, developed with isoamyl acetate to form a resist pattern 14. Further, the thin film 13 is selectively removed by using the resist pattern 14 as a mask and the reactive ion etching, and the reactive ion etching process is repeated by using a gas mixture of carbon tetrachloride and oxygen to remove chromium 12, thus permitting the thin tantalum film to effectively work as the mask of the chromium film 12 underlying the film 13, though the resist pattern 14 is gradually removed.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

⑫ 公開特許公報 (A) 昭61-138256

⑮ Int.Cl. 1

G 03 F 1/00
H 01 L 21/30

識別記号

庁内整理番号

7204-2H
Z-7376-5F

⑬ 公開 昭和61年(1986)6月25日

審査請求 有 発明の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 マスクパターンの形成方法

⑫ 特願 昭59-261513

⑫ 出願 昭59(1984)12月10日

⑬ 発明者 加藤 芳秀	川崎市幸区小向東芝町1	株式会社東芝総合研究所内
⑬ 発明者 篠崎 俊昭	川崎市幸区小向東芝町1	株式会社東芝総合研究所内
⑬ 発明者 桐田 康	川崎市幸区小向東芝町1	株式会社東芝総合研究所内
⑭ 出願人 株式会社 東芝	川崎市幸区堀川町72番地	
⑭ 代理人 弁理士 木村 高久		

明細書

1. 発明の名称

マスクパターンの形成方法

2. 特許請求の範囲

(1) マスク母材上に所定波長域の電磁波もしくは所定エネルギーの荷電ビームに対する遮光層を具えたマスク基板上にマスクパターンを形成する方法において、

マスク基板として、遮光層上に更に該遮光層のバーニング工程におけるエッティング条件に対して耐性を有する薄膜層を積層せしめたものを使用し、

該薄膜層上にレジストパターンを形成する工程と、

次いで、このレジストパターンをマスクとして該薄膜層をエッティングする第1のエッティング工程と、

更に、該薄膜層のパターンをマスクとして前記

遮光層をエッティングし、遮光層パターンを形成する第2のエッティングとを備えたことを特徴とするマスクパターンの形成方法。

(2) 前記第1のエッティング工程はドライエッティング工程であることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のマスクパターンの形成方法。

(3) 前記ドライエッティング工程におけるエッティング条件は前記遮光層が耐性を有するものであることを特徴とする特許請求の範囲第(1)項又は第(2)項記載のマスクパターンの形成方法。

(4) 前記第2のエッティング工程は塩素系ガスを用いたドライエッティング工程からなることを特徴とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(3)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

(5) 前記第1のエッティング工程は弗羅系ガスを用いたドライエッティング工程からなることを特徴とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(4)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

(6) 前記塩素系ガスは、四塩化炭素(CCl_4)、塩化メチレン(CH_2Cl_2)、塩化ホウ素(BCl_3)

のいずれかあるいはこれらと酸素ガス(O₂)との混合ガスからなることを特徴とする特許請求の範囲第(4)項記載のマスクパターンの形成方法。

(7) 前記弗素系ガスは、テトラフルオルメタン(CF₄)、オクタフルオルプロパン(C₃F₈)、塩化ホウ素(BCl₃)のいずれかあるいはこれらと酸素ガスとの混合ガスからなることを特徴とする特許請求の範囲第(5)項記載のマスクパターンの形成方法。

(8) 前記第1のエッティング工程はアルゴンガスを用いたドライエッティング工程からなることを特徴とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(3)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

(9) 前記遮光層としてクロム膜からなる遮光膜を含むマスク基板を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(8)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

(10) 前記遮光層として、遮光膜の他、前記所定波長域の電磁波に対する低反射膜およびまたは導電膜の積層されたマスク基板を用いたことを特徴

(15) 前記薄膜層がクロム層からなるマスク基板を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第(13)項記載のマスクパターンの形成方法。

(16) 前記遮光層又は薄膜層をドライエッティングする工程が異方性エッティングを用いた工程であることを特徴とする特許請求の範囲第(2)項乃至第(15)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

3. 発明の詳細な説明

〔発明の属する技術分野〕

本発明はマスクパターンの形成方法に係り、特に、光転写(ステッパ等)、電子ビーム転写、X線転写等のパターン転写技術に用いられるレチカルあるいはマスターマスクの作成に必要なマスクパターンの形成方法に関する。

〔発明の技術的背景とその問題点〕

半導体技術の進歩と共に、超LSIをはじめ、半導体装置の高集積化が進められてきており、高精度の微細パターン形成技術が要求されている。このような形成技術を量産ラインで使用するには

とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(9)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

(11) 前記低反射膜が酸化クロム膜からなるマスク基板を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第(9)項記載のマスクパターンの形成方法。

(12) 前記導電膜がインジウム酸化物またはスズ酸化物からなるマスク基板を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第(10)項記載のマスクパターンの形成方法。

(13) 前記遮光層として、タンタルからなる遮光膜を含むマスク基板を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(12)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

(14) 前記薄膜層がタンタル(Ta)、モリブデン(Mo)、タングステン(W)、シリコン(Si)、塩化シリコン(Si₃N₄)、酸化シリコン(SiO₂)、ポリシリコサンのうちのいずれかからなるマスク基板を用いたことを特徴とする特許請求の範囲第(1)項乃至第(13)項のいずれかに記載のマスクパターンの形成方法。

高速性が必要であり、ステッパ等のパターン転写技術の進歩が不可欠のものとなっている。そこで、レーザーを用いたステッパや電子ビーム転写あるいはX線転写等のサブミクロン・パターン転写技術が研究開発される一方、ステッパやアライナー等の従来のパターン転写技術に対して要求される精度も日増しに厳しくなってきている。

従って、当然、パターン転写の原因となるレチカルやマスターマスクの高精度化が期待されており、形成可能な最小寸法の微細化と共にその寸法精度も一層高いものが要求され、0.1μm(30°)以下の寸法精度が要求されるまでに至っている。

従来、レチカルやマスターマスク用として広く用いられているクロムマスク基板は、第6図に示す如く、低膨張ガラス、石英等のガラスからなる母材21と、該母材上に、露光波長の光に対して不透明なクロム層からなる遮光層22と、露光時における反射光を抑制するための酸化クロム層からなる低反射膜23とが順次積層せしめられてなるものである。

このクロムマスク基板上の遮光層22と低反射膜とをレジストパターンをマスクとして選択的にエッチング除去することにより所望のマスクパターンを形成し、これをレチクルあるいはマスター・マスクとして用いるわけであるが、形成に際しては、レジストパターンに対しても忠実にクロムエッチングが実行できるかが問題となる。クロムエッチングの方法としては湿式法と乾式法とが知られている。

まず、湿式法を用いたマスクパターンの形成は、第7図(a)に示す如く、前記クロムマスク基板上にレジストパターン24を形成し、このレジストパターン24をマスクとして、硝酸第2セリウムアンモニウムと過塩素酸とからなるエッチング液に浸漬もしくはエッチング液をスプレー式に吸引し、不要部のクロム層22および酸化クロム層23を除去することによって行なわれる。このように湿式法によってエッチングした場合第7図(b)に示す如く、レジストパターン24の下側までエッチングが進行し、レジストパターン24と形成されるクロム層22

では、高感度、高解像度のレジストほどプラズマ耐性が弱く、クロム層22および酸化クロム層23を選択的に除去するための前記プラズマエッチング工程においてレジスト25の著しい膜減りを生じると共にレジスト後退による寸法変化を伴い、エッチング後のクロムパターンは第8図(b)に示す如く、断面傾斜のあるパターンとなる。このため、第8図(c)(d)に示す如く、レジストパターン25に同一寸法 θ_1 の抜きパターンと残しパターンとがある場合、エッチング後のクロムパターンの寸法は夫々、 θ_1' 、 θ_2' となりその差 $\theta_1' - \theta_2'$ はやはり0.2～0.3 μmとなり、高精度のマスクパターンの形成には依然として問題が残されていた。

上述の如く、高精度のレチクル、あるいはマスクを作成するには、

- (1) 高精度のレジストパターン形成技術、
- (2) レジストパターンから、パターン変換差なく忠実に遮光パターンを形成する高精度のエッチング技術とそれに適うマスク基板が必要であった。

および酸化クロム層23のパターン(以下、クロムパターン)とに大きなパターン変換差が生じる。そしてその量は0.1～0.2 μmに及び、従って第7図(c)、(d)に示す如く、レジストパターン24に同一寸法 θ_1 の抜きパターンと残しパターンとがある場合、エッチング後のクロムパターンの寸法は、 θ_1' 、 θ_2' (光学濃度の半値幅)となり、その差 $\theta_1' - \theta_2'$ は0.2～0.4 μm以上にも達する上、クロムパターンの断面形状もアンダーカットを生じる等の問題があり、高精度化には限界があった。

一方、乾式法を用いたマスクパターンの形成は、湿式法の場合と同様に、第8図(a)に示す如く、クロムマスク基板上にレジストパターン25を形成し、このレジストパターンをマスクとして、四塩化炭素(CCl₄)等の塩素系ガスと酸素(O₂)ガスとの混合ガスプラズマを用い、不要部のクロム層22と酸化クロム層23とをエッチング除去することによってなされる。ところで近年、広く用いられている電子ビーム描画法を用いたレジストパターンの形成方法において使用される感電子線レジスト

【発明の目的】

本発明は、前記実情に鑑みてなされたもので、量産用パターン転写技術の要となる高精度マスクを作成するためのマスクパターンを形成することを目的とする。

【発明の概要】

上記目的を達成するため、本発明によれば、マスク基板として、マスク母材上に形成された遮光層上に、更に、該遮光層のバーニング工程におけるエッチング条件に対して耐性を有する薄膜層を積層せしめたものを使用し、該薄膜層上にレジストパターンを形成し、次いでこのレジストパターンをマスクとして該薄膜層をエッチングし、更に、該薄膜層のパターンをマスクとして前記遮光層をエッチングし、遮光層パターンを形成するようしている。

【発明の効果】

本発明のマスクパターンの形成方法によれば、従来法では限界とみられていたレジストパターンと遮光パターンとのパターン変換差を飛躍的に低

特開昭61-138256 (4)

減することが可能となった。

また、比較的ドライエッティング耐性の小さいレジストを用いても薄膜層(被覆層)が耐性を有しているため、レジストパターンに忠実で、寸法精度および断面プロファイルの良好な遮光層のパターン形成が可能となる。

更に、従来電子ビーム描画での近接効果に対する種々の補正施策(パターン寸法補正、ドーズ量補正、高加速電圧化、多層レジスト法等)を実施しても、パターン寸法変換差が大きいために、高精度パターンを忠実に再現することは不可能であったが、本発明の方法により、パターン寸法変換差を小さくすることができ、レジストパターンに忠実な遮光パターンの再現が可能となった。

加えて、高精度のマスクパターンが容易に実現できるようになり、サブミクロン領域の高集積デバイス用パターン転写技術も確実なものとなつた。
〔発明の実施例〕

以下、本発明の実施例について図面を参照しつつ詳細に説明する。

パターン14を形成する。(第2図(a))

次いで、該レジストパターン14をマスクとして、反応性イオンエッティング(RIE)により、第2図(b)に示す如くタンタル薄膜13を選択的に除去する。このときのエッティング条件は、反応ガスとして六沸化イオウ(SF₆)を用い、200W、0.06Torr、30秒間とする。このようにして形成された開口W₁はレジストパターンの開口W_Rに忠実に形成されており、レジストパターンの膜減りによる寸法変化は0.03μm以内に抑えることができた。

続いて、四塩化炭素(CCl₄)と酸素の混合ガスを用い、700W、0.07Torr、15分間の反応性イオンエッティングにより、クロム膜12を選択的に除去する。この工程で、レジストパターン14は、徐々に除去されていくが、タンタル薄膜は著しい耐性を有するため、ほとんど膜減りもなく、下層のクロム膜12に対するマスクとして効果的に作用する。従って、第2図(c)に示す如く、形成されるクロム膜のパターンは元のレジストパターン14

第1図は、本発明実施例のマスク基板の断面図を示すもので、このマスク基板は、低膨張ガラスからなるマスク母材11上に、遮光層としての膜厚約800Åのクロム膜12および微細パターン形成用薄膜としての膜厚約100Åのタンタル薄膜13を順次積層せしめたものである。なお、該タンタル薄膜13は、クロム膜12のバーニングのためのドライエッティング工程で用いられる四塩化炭素等の塩素系ガスと酸素ガスとの混合ガスに対して著しい耐性を有する。

また、このマスク基板の形成は、マスク母材11上に、スパッタ蒸着法を用いてクロム膜、タンタル薄膜を順次積層せしめることによってなされる。

次にこのマスク基板を用いた高精度マスクの形成方法について説明する。

まず、該マスク基板上に、ポリメチルメタクリレート(PMMA)膜14を形成した後、加速電圧50KV、照射量50μC/cm²の電子ビーム照射を行ない所望のパターンを描画し、酢酸イソアミル(IAA)を用いて現像処理を行ない、レジスト

の寸法に対して、0.05μm以内の寸法変化に抑えることができた。また、このとき、レジストパターン14は、エッティングによる膜減りによって徐々に除去されていく、特別なレジスト剥離工程は不要であった。

なお、この実施例を用いた薄膜はそれ自身、良好な遮光特性を有するため、第2図(d)に示したようなTa-Cr複合パターンのままでも高精度マスクとして使用可能であるが、必要に応じて、第2図(d)に示す如く、タンタル薄膜を除去してもよい。

また、レジストとしては、ポリメチルメタクリレートの他、ポリグリシジルメタクリレート(PGMA)等、他の物質を用いてもよいことはいうまでもない。ポリグリシジルメタクリレートをレジストとして用いた場合、20KV、1μC/cm²の電子ビーム描画を行なった後メチルエチルケトンとエタノールの混合液により現像処理を行なうことによって、実施例と同様に寸法精度の良好なマスクパターンが形成される。尚、レジスト

特開昭61-138256(5)

パターン形成方法としては、電子ビーム描画に限らず光露光法等周知のパターン形成方法が使えることは言うまでもない。

更に、本発明は、実施例に示したタンタルクロム複合マスク基板に限定されることなく、遮光層が第3図乃至第5図に示す如く、クロム膜等の遮光膜12と酸化クロム膜等の低反射膜14との2層構造からなるもの、遮光膜12と、インジウムもししくはスズの酸化物等からなる導電膜15との2層構造からなるもの、遮光膜12、導電膜15、低反射膜14の3層構造からなるもの等、遮光層が積層型である場合にも適用可能であり、エッチング耐性を有する微細パターン形成用薄膜13を形成することにより、寸法精度の良好なマスク形成が可能となる。

更にまた、微細パターン形成用薄膜13としては、タンタル薄膜に限定されるものではなく、クロム膜等の遮光層が容易にエッチングされる条件で、比較的強い耐エッチ性を示し、逆に遮光層が比較的強い耐エッチ性を示すエッチング条件で容易に

チャネリング・マスク・パターンを形成する場合にも、母材及び遮光材を適宜選択することにより本発明を適用できることは言うまでもない。

また、微細パターン形成用薄膜のエッチングガスとしては六氟化イオウに限定されるものではなく、テトラフルオルメタン(C_4F_8)、オクタフルオルプロパン(C_8F_{18})、のいずれかあるいはこれらと水素ガス(H_2)又は酸素ガス(O_2)との混合ガス等の他の弗素系ガス、アルコンガス等の使用も有効である。

更に、遮光層のエッチングガスとしては、四塩化炭素と酸素の混合ガスに限定されるものではなく、塩化メチレン(CH_2Cl_2)、塩化ホウ素(BCl_3)のいずれかあるいはこれらと酸素ガスとの混合ガスの使用も有効である。

尚、本発明により、微細パターン形成用薄膜もしくは遮光層のエッチング方法として、湿式あるいは乾式エッチング法を組み合わせて、マスク・パターンを形成することも出来る。

エッチングされる物質であればよい。ドライエッティングを用いる場合には例えば、遮光層として、クロム膜を用いる場合には、シリコン(Si)、窒化シリコン(Si_3N_4)、多結晶シリコン、モリブデン(Mo)、タンクステン(W)、酸化シリコン、ポリシロサキン等、塩素系ガスに対しては比較的耐エッチ性があり、弗素系ガスに対しては比較的容易にドライエッティングされる物質が有効である。また、その膜厚についても、ピンホール特性や、レジストパターンに用いられるレジストの耐ドライエッチ性を考慮して、適宜選択可能であるが、レジストとのパターン変換差を小さくする為に、 $100 \sim 300 \text{ \AA}$ 程度が望ましい。

加えて、マスク母材としても、低膨張ガラスあるいは石英に限定されることなく、適用するパターン転写技術に応じて、適宜選択可能であり、X線マスクとして用いる場合には、シリコン、窒化シリコン、ポリイミド等も使用可能である。

又、所定エネルギーを有する荷電ビームを用いた、荷電ビーム投影露光法用マスク・パターンや、

4. 図面の簡単な説明

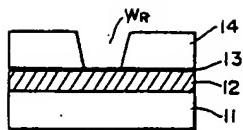
第1図は、本発明実施例のマスク基板を示す図、第2図(a)～(c)は、同マスク基板を用いたマスクパターンの形成工程を示す図、第2図(d)は薄膜を除去した場合のマスクを示す図、第3図乃至第5図は、本発明の他の実施例を示す図、第6図は、従来のマスク基板の1例を示す図、第7図および第8図は、従来のマスク基板を用いた場合のマスクパターンの形成状態を示す図である。

11…マスク母材、12…クロム膜(遮光層)、13…タンタル薄膜(被覆層)、14…レジストパターン、21…母材、22…遮光層、23…低反射膜、24…レジストパターン。

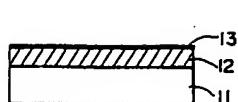
出願人代理人 木村高久



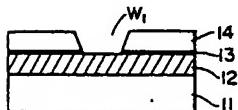
第 2 図(a)



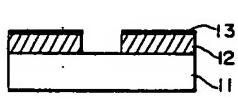
第 1 図



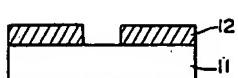
第 2 図(b)



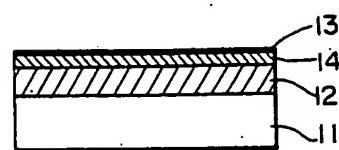
第 2 図(c)



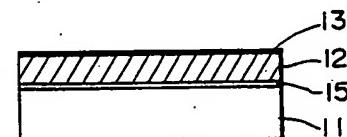
第 2 図(d)



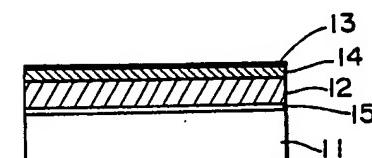
第 3 図



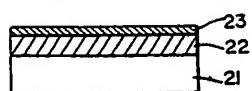
第 4 図



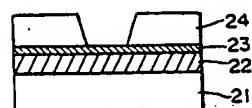
第 5 図



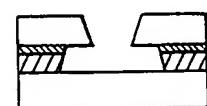
第 6 図



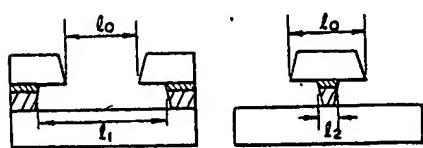
第 7 図(a)



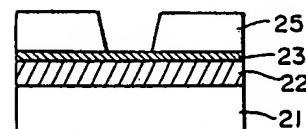
第 7 図(b)



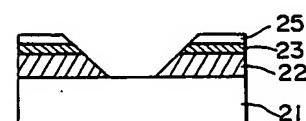
第 7 図(c) 第 7 図(d)



第 8 図(a)



第 8 図(b)



第 8 図(c) 第 8 図(d)

